

辺野古の埋立てを止めよう!

～沖縄と神奈川を結ぶ3.25講演集会～



演題: 日本はなぜ米軍をもてなすのか～〈従属〉の源流

渡辺豪さん・毎日新聞、沖縄タイムス記者を経て、現在フリー。著書に『「アメとムチ」の構図』(沖縄タイムス社)、『国策のまちおこし』(凱風社)など。新著『日本はなぜ米軍をもてなすのか』(旬報社)で沖縄防衛局(旧防衛施設庁)の源流を辿り、〈従属〉の構造を問う。



演題: 今辺野古で起こっていること～現地報告と訴え

山城博治さん・沖縄平和運動センター議長。辺野古ゲート前座込み行動のリーダー。「ミスター・シュプレヒコール」の異名を持つ。半年間の闘病生活を経て復活。激烈な言葉で国家暴力の理不尽さを糾したかと思うと歌とダンスの全身表現で座込み参加者を鼓舞する。

昨年10月13日、翁長沖縄県知事は前知事の辺野古埋立て承認を取り消した。しかし日本政府は、法律を恣意的に解釈して翁長知事の取消処分を執行停止させ、米軍基地建設のための作業を再開するとともに、知事権限を剥奪するための代執行訴訟を起こした。沖縄の民意を踏みにじる暴挙であり、露骨な自治破壊攻撃だ。これに対し沖縄県は国の不当性を訴える抗告訴訟で対抗、辺野古の海と陸では埋立て工事を止めるための島ぐるみの闘いが展開されている。安倍政権の戦争国家化政策の最前線の沖縄・辺野古で何が起きているのか。なぜ日米両政府は「辺野古が唯一」にこだわるのか。政権の暴走を止めるために神奈川から何ができるのか、共に考えたい。多くの参加を!

3月25日(金)

18時半 開場 資料代 700円

会場: 関内ホール(小ホール) (JR 関内駅 6分 横浜市中区住吉町 4-42-1 Tel.045-662-1221)

主催: 島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会/神奈川平和運動センター/基地撤去をめざす県央共闘会議

連絡: 090-7402-5245 檜鼻(基地撤去をめざす県央共闘会議)/090-4822-4798 深沢(沖縄講座@横浜)



辺野古新基地を止める！-12月14日に「オール沖縄会議」結成！



12/14 夕刻、沖縄にしては冷たい！と感じるほどの雨模様にもかかわらず、宜野湾市のコンベンションセンターはほぼ満席 1300 人の参加者の熱気に満ちていた。

大城連合会長、平良さと子那覇市議、古謝金秀グループ副会長 3 人の議長団で進行、山城博治さんが自ら起草した設立趣意書を力強く読み上げた。(右の設立趣意書参照⇒)

共同代表の稲嶺名護市長「法廷闘争を支えるのは大衆運動の力。国の圧力、暴力を許してはならない。負けてはならん！」

高里鈴代共同代表「よくぞここまで来た。20 年間、倒れた人もいるが、命と人権を守るこれからの 20 年をつくりあげていきましょう！」

翁長知事が登場すると場内割れんばかりの拍手と歓声。「なぜ沖縄の歴史と現在を語るか。先人の苦労に比べれば大したことはない。私たちの頑張りが子や孫の未来を切り開く。県民一丸となって法廷闘争を闘う。辺野古基金もさらにもり立てる。普天間基地が 10 年 20 年残ることが固定化ではないのか。恒久基地を造らせていいのか。」怒りのこもったメッセージだ。

辺野古の現場からの発言。安次富浩さん「名護市民投票から 18 年、命を守る会の金城さんを思い出す。こんな大きな闘いになることは誰も想像しなかった。しかしまだ勝利していない。闘いは続く。警視庁機動隊が乗り込んで怪我人が続出している。県公安委員会に要請したい。ヤマトから機動隊を呼ぶな。」山城さん再度登場。「警視庁機動隊が来ているが、これから全国の機動隊の選抜隊が来るという話がある。安倍内閣がいかに沖縄の新基地建設を重視しているかを示している。迎え撃とうではないか。」仲村勝彦さん「いまウチナンチュウが関わらずしていつ闘うのか。関わらずして沖縄の未来はない。」

米国の退役軍人の会も登壇した。熱いアピールが続き、最後は沖縄風の団結ガンバロー。あつという間の二時間だった。

辺野古の闘いを支える全県的な組織を！という現場からの要請に応えた「オール沖縄会議」結成の成果はすぐに現れた。水曜行動の翌日の早朝行動はこれまでは少人数だったが、17 日は 150 人超も集まった！（沖縄講座@横浜「辺野古通信」第 49 号から）

「辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議」 設立趣意書

辺野古新基地建設をめぐる政府の攻勢は、不条理を極めあからさまな権力の乱用を伴って翁長県政ならびに沖縄県民に襲いかかっている。国交省は、翁長知事が下した埋立て承認取り消しについて行政不服審査法を根拠に「効力停止」とし、他方で代執行訴訟の提訴に及んでいる。まさに「法治主義」を自ら否定する暴挙であり権力の乱用という外はない。県民世論は 8 割が県知事判断を支持している。問われるべきは県民の総意をどう実現していくかであり、その民意を圧殺し、政府方針をこり押しする強権発動は決して許されない。

県政並びに県民の意向を一顧だにしない政府の強硬姿勢を受けて、県はついに政府との全面的な法廷闘争に突入した。そして辺野古キャンプシュワブゲート前ならびに海上での反対・抗議行動は一層激しくなっている。一方で勢いを増す沖縄の闘いに恐怖する政府は、11 月 4 日から警視庁機動隊を百人以上辺野古に常駐させた。事態はいよいよ政府の大弾圧をも予感させる緊迫した局面へと突入した。

このような局面にあっても、翁長知事を先頭とする県民の闘いは萎縮するどころか、沖縄の政治・社会大衆運動史上かつてない世論の結集をつくりだし、中央政府と対峙してでも沖縄の未来は沖縄が切り拓くという気概に満ち溢れている。今こそ、沖縄の歴史と誇りをかけた闘いのとき。それだけに今、巨大な政府権力に立ち向かい最終的にこの闘いに勝利するための戦略を描き、闘いを統一的に掌握し組織する"オール沖縄"の形成が求められている。あらゆる政党・会派、経済団体、労働団体、平和・民主団体、女性・青年団体、あるいは学者・文化人、法律家団体などを網羅し、さらには各市町村に立ち上げられた"しまぐるみ会議(名称は多様)"をベースにする広範な市民の参加結集を呼びかけ、全沖縄、全県民的な結集軸の形成を図る。

「オール沖縄会議」は、そのために結成される。オスプレイの配備撤回、普天間基地の閉鎖撤去、県内移設断念を求め政府に突き付けた 2013 年の『建白書』の精神を基軸に、翁長知事を支え、県民を鼓舞し辺野古現地の闘いを大きな支援の輪で包んでいく。

具体的には、県政が政府との全面的な法廷闘争に入った現在県民挙げての支援体制を構築していくなど「あらゆる手段を駆使して新基地建設を阻止する」という翁長知事の闘いを全面的に支えていく。また、辺野古現地への支援活動の計画的実施、大規模な県民集会の開催などをとおして現地行動を支援強化していく。さらに全国集会への大規模な派遣や新聞等への意見広告を実施するなど全国の理解と支援の強化を図っていく。また国際的な理解拡大のための諸活動を強化していく。

来年はまた、宜野湾市長選挙を皮切りに、県議会議員選挙、参議院議員選挙など今後の政治状況を左右する極めて重要な選挙が控えている。政府に攻撃の口実を与えず開き直りを許さないために揺るがせにできない政治課題である。選挙勝利に向けて各選挙母体と連携を図っていく。

横暴を極める政府との総力を挙げた闘いに総決起し、また一方、最大の当事者でありながら、「辺野古新基地建設は日本の国内問題」と開き直る米政府を許さず、新基地建設を阻止し、明るい未来の扉を開いていくために県民の英知を結集しよう！